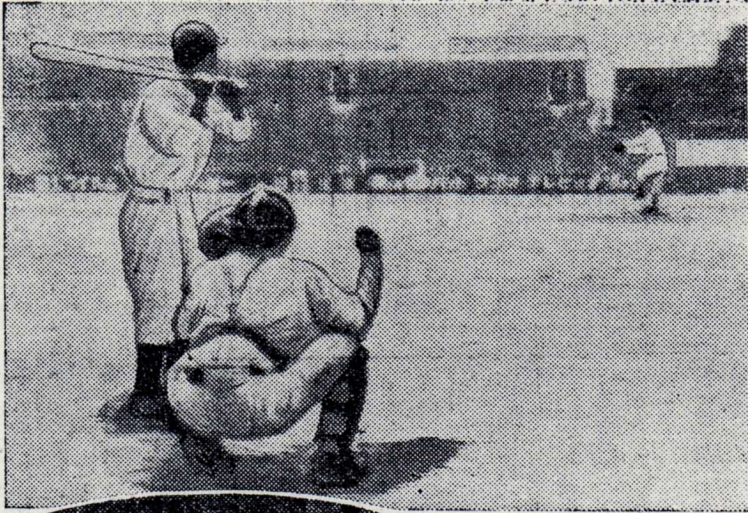


甲子園の土ふんで

初練習に張切る岩高

白坂選手もかけつけ声援



【甲子園にて本社七層特派員発】勝れの奥羽代表として甲子園に臨んだ岩手高球チームは六日午後五時大阪入りし、チームは七日午前十一時半からあつがれの甲子園の土を踏んで初練習を行った。金選手は長途のつかれもみせず極めて元気で「サアゆこう」との掛声とともに広い甲子園球場を軽く二周足ならしをした後打撃練習に入った。

●甲子園の土ふんで打撃練習の岩高ナイン ●大阪駅到着の選手団一電送

奥羽大倉中や当りが止っていた田中が、リリーフ投手松館の投げたボール、ドロップをレフト、センター方面にライナーで飛ばし、戸島部長も「田中が当りをとりもどせば大丈夫」とホクホク顔。そのころ甲子園付近に住んでいる大阪タイガースの白坂選手が「腹をこわして……」と普流し姿で現われ「キキキやれ」と掛声をかけて声援していた。

「いなければ……」と余裕しゃくしゃく、打撃一順する間に三分の練習時間は過ぎたが、一番板垣、四番田中、五番小泉、六番村川はレフト、あるいはセンター方面に鋭い当りをみせ、また三番田口、二番名久井も快心の当りを示している。

戸島部長も「この調子で行けば田中も当ってきているので他校にヒゲをとらない」とホクホク顔。白坂選手も「選手は小粒だが、よくまとまったチームだから相当カンバレルだろう」と大鼓判を揃す。

十二時に練習が済み休息になったが「体をこわさぬ様に」の注意が徹底して、ベンチにかけ込み水を飲むとするとする若い選手に対し「水は飲むな」と大声でしかるともめたり

一緒に語り合っている様子など岩手高野球チームの一致団結がどの強敵にも負けそうにもない。

きょう八日はいよいよ十時より試合組合せの抽選があり相手校が発表になるが、八日午前九時十分まで練習する予定である。なお岩手高の宿舎は西宮市池田町三、三福旅館である。

岩高あす法政二と対戦

川村「先取点奪えれば……」と余裕 監督

【甲子園にて本社七宮特派員発】
○岩手高校チームは第一日目の三福旅館にすでに組合せ発表が伝わり、相手は法政二高と対戦することになった。群雄割拠の神奈川から横浜などの強敵を破って出てきたチームだ。八日の朝九時から甲子園で軽いトレーニングを

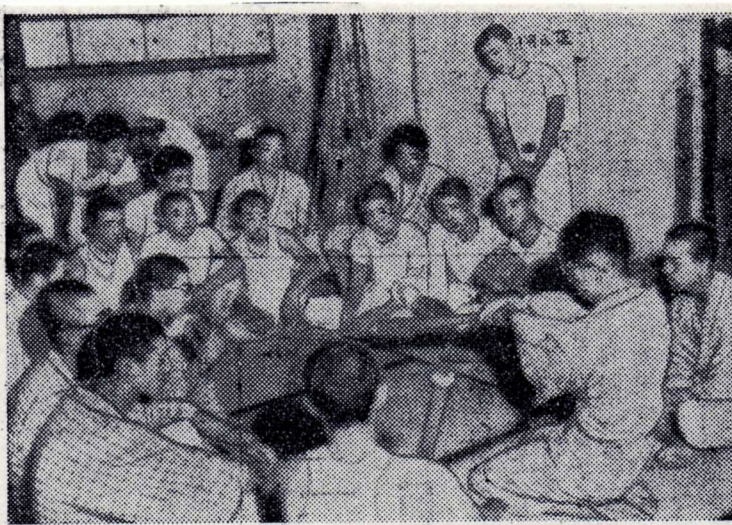
行った岩高チームは宿舎の西宮市三福旅館にすでに組合せ発表が伝わり、相手は法政二高と対戦することになった。群雄割拠の神奈川から横浜などの強敵を破って出てきたチームだ。八日の朝九時から甲子園で軽いトレーニングを

勝つて、なんとなく甲子園にきたから……とたんとしたもので、ただ第一日目の第一試合では大会のふんばりにならぬので、後の方で試合をしたかったという選手のごちだ。心配していた選手のための疲労や事故者は一人もなく、ナインの士気は大に上がっており、法政二高を恐るるに足らずという意気だ。

△内野陣 完壁とはいえず、県大会準決勝以降五試合に平均一個の失策を記録しているが、一塁名久井一塁平野、三塁板垣、遊撃小泉と無難の守備陣をしき、特に遊撃小泉の深い守備は定評がある。

△外野陣 左から佐々木、田口、沢野の布陣で、比較的守備範囲が狭いとわかれていたが、奥羽大会では本塁打性の当りを好捕危機を脱する美技をみせた佐々木など打球に対する動きもよくなってきた。

△打撃陣 短打主義を身につけた打撃陣は県大会五試合、奥羽大会三試合を通じて総打数二百五十三本中、安打六十八本、二割六分九厘のチーム打率を示し、個人別（県大会準決勝以後）にみると一番板垣一割六分一厘、二番名久井一割二分二厘、三番田口七分一厘、四番田中一割六分七厘、五番小泉一割九分、六番沢野三割一分二厘、七番佐々木二割三分一厘、八番村川四割一分二厘、九番平野三割三分三厘と上位打線よりもむしろ佐々木村川、平野といった中堅どころが曲者でチャンス・メーカーとなつている。特に奥羽大会で三塁打一本、二塁打一本を含む六本の安打を記録し、五割四分五厘の打率を持つ村川と、最近当り



○発表を聞いても各選手は案外のおんきで練習が残り食事を持つ間替や将棋を楽しみ、余裕のあるところを見せる。三塁の板垣に「どうだ」と聞くと「別になんともない。奥羽大会のとき、なんとなく……」と聞くと「別になんともない。奥羽大会のとき、なんとなく……」と聞くと「別になんともない。奥羽大会のとき、なんとなく……」

△打撃陣 短打主義を身につけた打撃陣は県大会五試合、奥羽大会三試合を通じて総打数二百五十三本中、安打六十八本、二割六分九厘のチーム打率を示し、個人別（県大会準決勝以後）にみると一番板垣一割六分一厘、二番名久井一割二分二厘、三番田口七分一厘、四番田中一割六分七厘、五番小泉一割九分、六番沢野三割一分二厘、七番佐々木二割三分一厘、八番村川四割一分二厘、九番平野三割三分三厘と上位打線よりもむしろ佐々木村川、平野といった中堅どころが曲者でチャンス・メーカーとなつている。特に奥羽大会で三塁打一本、二塁打一本を含む六本の安打を記録し、五割四分五厘の打率を持つ村川と、最近当り

△外野陣 左から佐々木、田口、沢野の布陣で、比較的守備範囲が狭いとわかれていたが、奥羽大会では本塁打性の当りを好捕危機を脱する美技をみせた佐々木など打球に対する動きもよくなってきた。

△内野陣 完壁とはいえず、県大会準決勝以降五試合に平均一個の失策を記録しているが、一塁名久井一塁平野、三塁板垣、遊撃小泉と無難の守備陣をしき、特に遊撃小泉の深い守備は定評がある。

△打撃陣 トップ吉次と三番熊倉四番大泉が中心、ともにシャープなバッティングで一番板垣以下どこからでも打出せる切れ目のない打線を持つている。予選を通じてのチーム打率は二割七分七厘。投投手のバランスがとれ、練習をよよく積んでいるのでチャンスを選さない。都会チームらしい洗練されたプレーをみせる。両チームのメンバーのつと

【法政二高】
投手 二二三遊左中右補
捕手 二二三遊左中右補
一塁 二二三遊左中右補
二塁 二二三遊左中右補
三塁 二二三遊左中右補
遊撃 二二三遊左中右補
外野 二二三遊左中右補

野球開幕

よき開幕

【甲子園にて本社七宮特派員発】予選参加千七百三十一校からいにかげられた奥羽代表若手高球など二十三地区代表チームが本年度高球野球の王座を競う第三十七回全国高球選手権大会は、きょう十日甲子園球場で花々しく開幕、八日間にわたる熱戦をくりひろげる。大会の花ともいふべき開会式は、定刻午前十時打上げ花火、開会宣言につづきファン・ファーレの吹奏を合図に二十代表の場内始まる。真紅の大旗をかかげて先頭を切るのは前年度優勝校中京府これに神奈川代表法政一、南関東代表成田、兵庫代表神戸がつづき、場内を一周して投手板を中心に列縦隊で整列、国旗、大会旗の掲揚、村山大会々長の開会のあいさつなきがけ行われたのち、法政二高吉沢主持の力強い宣誓があつて再び閉じ、同十一時静岡(山静)―城東(南四国)戦を皮切りに熱戦の火ぶたを切る。

郷土から激励電の山

両先輩小武方も駈付ける

決戦ひかえ意気高し 岩手高 ナイン

【甲子園にて七宮特派員発】いよいよ十日は決戦の日、われらの代表岩手高チームが甲子園の原頭で石坂魂を揮舞する日だ。強敵法政二高にたいして力いっぱい、試合の戦いを期待される九日、試合の前日には応援団長鎌田君をはじめ応援団が三間の大ノボリをもつて来攻、また対敵急戦のナイターのため下阪した田子、小武方選手

なすが激励にあわれれたり、激励電報が三、四十通舞いこんだり、しだいに盛りあがる大会気分が各ナインの士気を鼓舞される。必勝の信念いよいよ堅く決戦の日をいざこいざまっついていたこの日各選手は表情を拾つてみると

○八日朝日会館の茶話会で疲れて寝ていたのを九時ごろ襲撃したのは激励電報の山、山中岩

○午前十時十分から二十分までの十分間最後の甲子園クラウ



ンドでの足なりしをしたのち、近くの浜脇小学校で一時間最後の仕上げを行う。奥羽大会で当りのとまっていた田中、田口、川村投手の投げたカーブ、ドロップをボカボカと打ちあげると川村投手も安心した表情。

○練習を終って引上げた合宿に南海の田子選手がまちかまえていた。九日から大阪難波球場での対阪急三連戦のあいまをぬって後輩の激励にきたわけ。『おれたちがこれなかつた甲子園にきたのだからガン張れヨ』といえは川村君『ガン張ります』と答えていた。

高球長の『石坂精神を發揮せよ』『や』『アガることなくスクを逃がさずケロソとして力張れ』という赤沢元市議のおくになまりの電報に各ナインを落着かせるそのうち三間の大ノボリを掲げて鎌田応援団長が下阪団が到着。

○四時から大会に備えて入場式の予行練習が行われたが、大会気分も上げ潮、はるばるかけた高球野球連盟の樋口盛岡一高校長、二十年前若手高で教へんをとり戸部部長を教えていたという昭利産業社長の谷口定吉氏が現れる。つぎに戸部先生に教えられた佐々木禎一市議、柄内松四郎氏などもなげつけ思

わぬところ若手高校長をくりひろげる情景もみられた。

○若手県人会をはじめ各会社からおくりだされたスイカ、サイダー、ジュースをたいらげているうちに夕方、宿の心すくしのテキ、カツをたいらげ、夕方顔を見せた小武方を激励され、川村投手から最後の作戦指導をうけたのち、登用

○十日の応援にはラサ工業で準備したワチワ、フエを三間の大ノボリを中心に各方面からかけた関西在住県人百五十人が三塁側にまもり応援するはず。

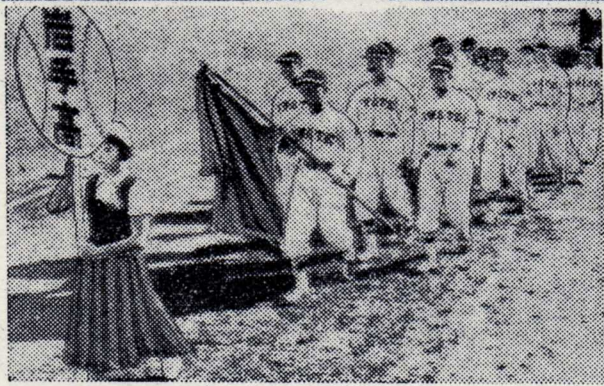
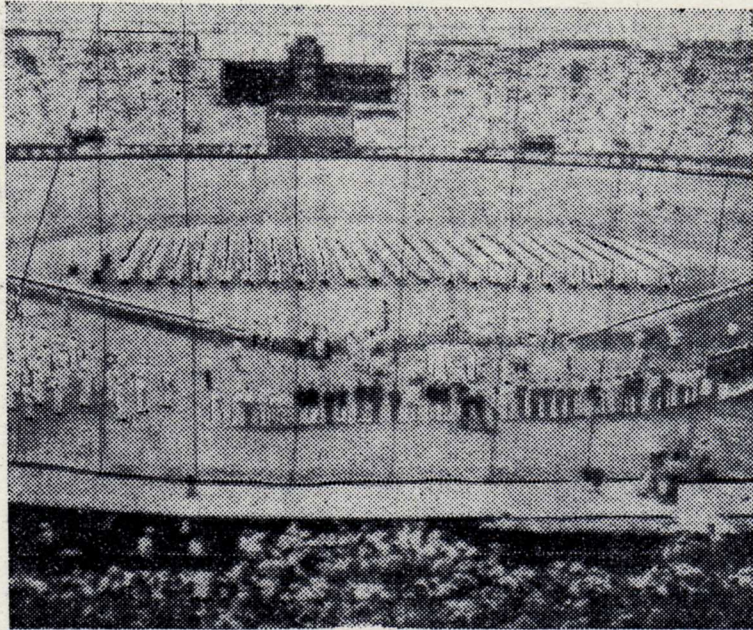
のグロトブヤスバイクを心おきなく手入れして各ナインは第一戦勝利を夢見ながら午後九時眠りに入った。

岩高・堂々第一戦を飾る

甲子園原頭・初陣の殊勳

3-0 法政二高に完勝

【甲子園にて本社七宮特派員発】本年、高砂野球の王座を決する第三十七回全国高校野球選手権大会は十日甲子園原頭に花々しく開幕。初出場の奥羽代表岩手高は神奈川代表法政二高を堂々降し殊勳をうち立てた。第二試合岩手高対法政二高戦は午後一時二十分開始、立上がりから岩手高うち気に出、得意の単打戦法が見事功を奏して先取得点をものにしてから投手の意気いやが上にも燃え、三回に二点、五回に一点と着実に加点、一方村川の好投とバックの好守も手伝って法政二高の猛追を見事ふり切って第一戦を飾った。



【写真】は入場式
全員のフラカ
ドをもって堂々入
場の岩手高校チー
ム（横送）

【三回】(法政二) 宮三郎、根岸四郎、照屋飛、吉沢遊ゴロ、(岩手) 坂垣左前安打、名久井野選で生き、一塁のチャンスを迎える。田口三郎ゴロで坂垣三封、田中右前安打で一死満塁、このとき小泉中飛で名久井生還、一点を加える。沢野三郎(法政二)、岩手(岩手) 佐々木三遊間安打、野遊飛(法政二)、岩手(岩手) 野遊飛(法政二)、岩手(岩手) 野遊飛(法政二)、岩手(岩手) 野遊飛(法政二)...

【四回】(法政二) 坂垣出投ゴロ、坂垣三封、次打者大泉一、一塁間の安打を右翼沢野フルで後逸、大泉との間に三塁に達する記録上は二遊打。しかし好投の村川五番宮を三振にうち取り岩手ピンチを脱す(岩手) 佐々木三遊間安打、村川遊ゴロで六、四、三併殺二死、平野三塁強襲ゴロ、二宮の好守に阻まれる。(両軍0)

【五回】(法政二) 秋沢石飛、二宮左前打、根岸ヒット、エンドラシを敢行したが一塁ゴロで二死、しかし宮は一進、田中の落球をねらって根岸三盗を試みたが刺殺(岩手) 一番坂垣左翼線キリキリの二遊打、名久井右飛、田口大泉のカーブに三振、当り屋田中左腕ワン・バンドで御覽席に入る六二塁打を放ち坂垣生還、一点を追加、続く小泉遊ゴロを放ったがリードの大きい田中は三塁をオーバーランして三、本塁に刺殺される。(法政二0、岩手1)

【六回】(法政二) 三ゴロの照屋、坂垣の失策で出塁したが盗塁をねらって平野に刺さる。吉沢中前安打、坂垣左前安打で一死、走者一、一塁の好機、しかし坂垣一邪飛で二死、次打者大泉右翼に大きい当りを示したが、右翼沢野移走して好捕、美投に岩手危機を脱す。(岩手) 沢野、佐々木いずれも左

岩手高	打安失三	四	盗	法政二	打安失三	四	盗
吉坂熊敏大	0	1	2	1	0	0	0
秋一根照	0	1	1	0	0	0	0
吉沢遊ゴロ	0	0	0	0	0	0	0
坂垣左前	0	0	0	0	0	0	0
名久井野	1	0	0	0	0	0	0
田口大泉	1	0	0	0	0	0	0
屋田中	1	0	0	0	0	0	0
沢野	2	0	0	0	0	0	0
計	26	5	2	8	4	2	2
法政二	3	1	5	1	0	0	5
計	31	5	3	5	1	0	0

田中主将先頭

【甲子園にて本社七宮特派員発】甲子園の空は少し曇っているが、午前十時過ぎを過ぎしめ若人の群像が堂々入場してくる。優勝旗を持つ前年度優勝の中京神奈川頭に一番目にきょうの大敵神奈川代表法政二高が続いてくる。関西吹奏連盟の吹奏楽に合わせ、わ

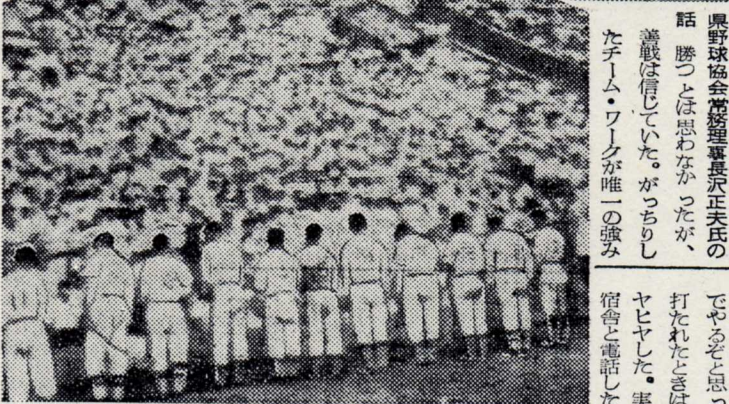
れ等の岩手高校ナイン十六名が入場してきた。このとき内野三塁タンドに陣取った郷土選手からわざわざ応援には参じた母校応援団や関西在住原人約百名が「若手ガンバレ」の声を援と拍手を送った。

このなかを田中主将が奥羽大会優勝旗を右手にたく、握りしめ続いて村川、小泉、田口各選手が三列に並んで進む。だれもがこの盛装には、を固くこわはらせず、スパイクで二歩一歩固く白線まはゆいタイムンドを踏みしめる。八方の大観衆の激励に包まれて岩手高校堂々の入場ぶりだ。大会宣言、開場あいさつの間中岩手高ナインはきょうの試合法政二高戦に必勝の気ほくをみせさせていた。

でかした岩高沸く郷土

『団結』と『闘志』の勝利 一回戦13日の抽選で

岩手高、初陣ながら緒戦をものにし「一回戦へ進出」。岩手高三点をリードして九回を迎え、法政一死後、宮の一撃は遊ゴロとなつてこの幸運のウォニングボールが一塁手名久井のミットにはじきおさまる『ゲーム・セット』のサインがマインを通じて鳴りわたるや、勝った勝ったの歓声がチマタに流れる。まったく感激の一瞬である。遂に初陣の岩手高が強豪法政二高を3A:0で堂々とシャット・アウトして緒戦を飾つたのだ。これはかつて昭和二十二年福岡高が埼玉代表の谷村高を一回戦で破つて以来このかた甲子園のヒーネキ舞台で本県チームが一回戦へ進んだことがなかったが、こんどはその時以来八年ぶりとおぼつて感激もまたひとしおであった。以下関係者喜びの話――。



県野球協会常務理事長沢正夫氏の話 勝つとは思わなかったが、善戦は信じていた。がっちりしたチーム・ワークが唯一の強み

先取点あげた瞬間 一回裏岩手高満塁のとき田中機飛で三塁走者 板垣 本塁に飛びこんでセーフ先取点をあげる。㊦勝って 応援団の激励を受けるナイン＝電送

【甲子園にて七宮本社特派員発】
○試合前心配されていた岩高応援団、試合当日鎌田応援団長はふるふる運んできた高さ三層の『岩手高校』と大書した大のぼりを高々と三塁側に打ち立てたところ、たちまちその廻りに関西在住県人が集まって百人ぐらゐの応援団が

ネット裏から

出来、ラサ工業が準備していたウチワ、節を手渡し、ウチワを振つたり節を鳴らしたりの大応援。盛岡からかけつけた樋口盛岡一高校長や、盛岡の佐々木、柄内氏らが手足を振つての大応援。

○ネット裏の記者団の側面はだれもが岩手が何点差まで追いつめるかなどいってしたが、一回表から村山投手が法政の一審で、板垣の絶妙の好投と上位打順の健闘が勝利の原動力だろう。関東、関西のチームは先取得点を奪われれば精神的に大きな打撃を受けるのが通常で、一回一点をあげた時は『勝てる』と思つたが、この闘志を忘れず一回戦も敢闘してもいい。

○二六回裏が法政の唯一のチャンスだったが、二死後吉野、高田と連続安打、一死の橋本の大塁がライトに大飛球を上げたが、ライト沢野は後走に後走を

田と連続安打、一死の橋本の大塁がライトに大飛球を上げたが、ライト沢野は後走に後走を
呉服の京藤
盛岡・東大通
電三七五五
してこの難球を見事取つたのは殊勲だった。

岩高野球部後援会長村井源三氏の話 じつとしておられず試合の始まる少し前から学校でかけてきた。一回裏先取点を得たときは、これならかなりのところまでやるぞと思つたが、三塁打を打たれたときはどうなるかとヒヤヒヤした。実は昨夜も西宮の宿舎で電話したのだが、皆元気が

【戦評】低調な試合で、技量よりも胆の差が岩手に勝利をもたらした。岩手村川は五尺八寸の長身にしてはスピードを欠いていたがプレート度胸や左腕からのシュート、カーブをうまく配合して危気

なく法政をシャットアウトした。これにたいして法政の大泉は一回ややあがり気味で無死から二四球を出しバント処置にも失敗して自らピンチを招いた。岩手はこのチャンスを外野擁護でものにし、三回には板垣の安打と野連のあと田中が右へテキサスし、五回には板垣、田中が長打して各一点を追加、早くも大勢を決めた。法政は一体に浮足立って守備の動きが悪く、攻撃面でも精彩がなかった。

次頁に続く

調子が良かった

五安打に封じた村川君の談

【甲子園にて本社七宮特派員発】
 球児あこがれの甲子園原頭で奥羽の代表岩手チームは第一戦を堂々3A:0と一方的に法政二高を降し初出場の第一戦を飾ったが、村川君の好投、板垣、田中の健棒、沢



●初陣の勝利にわく岩手高校一前列左から二人目が山中校長●村川投手家族の万歳

川投手はきょうは体がやわらかくアウトライン、インコーナーに低目を投げたのがよくままりましたと言葉もなく語り、戸島部長は休養を取らせることが大切だと思つて可哀想だったが、生徒の

期せずして万歳

岩手高校

午後三時二十四分岩手高校が法政二高を破つたその瞬間期せずして盛岡市長町の岩手高校校長室で実況放送に聞き入つていた村井野球部後援会長長初め教員合宿中のクラブ部員の間から起る。感激の瞬間。よくやった、よくやった。ラジオにかじりついていた全員、おどろおどろと万歳を叫ぶ。自宅でラジオに聞きい

外出を禁止して休養させたのが良かったのだ。語り、川村コーチも法政のバッターは腰が固そうだったから、村川にコーナーをつかさせたのがよかったこと、よく打ってくれたことです。

と勝因を語っているが、結局第一回裏法政の大泉投手の乱れに三四



ていた山中校長も勝利の放送をあとに学校にかけつけ、ヒツキリなしにかかってくる祝いの電話の応待に「さつそく電報をもちましたヨ」と満面喜びをたえていた。山中校長は「よくやってくれました」と感激をこめて次のように語った。

晴れの試合を応援しようといふ八日の夜行で甲子園に急行したが、十日は母ウメさん(母)をはじめ家族五人が近所の人たちとラジオにしがみつこうにして投打に一喜一憂するといふ情景がみられた。午後三時二十四分、勝利のサイレンが鳴りわたったときは期せずしてバンスイの声が起り、家族たちは、続々押しかける訪問客の応接に忙しく、紅潮した顔で祝辞にこたえていた。母ウメさんは

「こんなに立派に勝つとは...」
 喜びの村川君宅
 村川投手の父蔵さん(父)は息子の

勝つてくれれば良いとは思っていたが、こんなに立派に勝つとは思いませんでした。勝利が決まったときはなんともいえぬ喜びでいっぱいでした。次のチームとも思い切り戦うよう祈っています。

勝利の夜のナイン

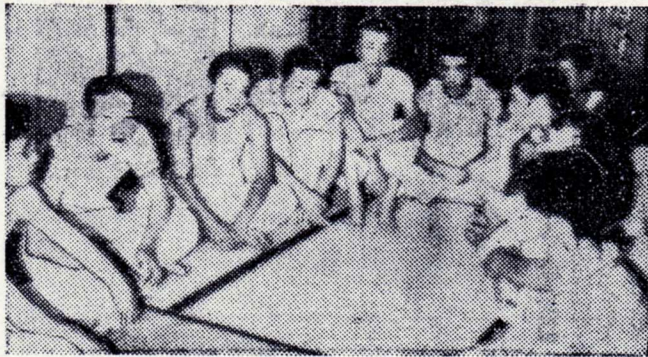
静かな岩高宿舎のひととき

【大阪にて本社七宮特派員発】初日法政二高を降した岩高ナインは甲子園グラウンドから真直ぐに台宿に帰り、フロに入り汗を流しているうちに盛二一高はじめ一関一高、一戸高などからとんとん祝電が入ってきてたちまち四十連ぐらいの山。そのうち盛岡の村井後援会長から電話で祝辞が届き、電報は選手達にも村川君に四通、小泉君に三通、名久井君に三通などと

各ナインにもれな「オメトウ」の祝電が舞込んでくる。その妹の選手達はシャツとついで寝こんでいたが「疲れたカイ」と言えば「負けたら疲れたるうが負けなかつたからあまり疲れない」と三宮春表情で、岩高の動きを書いた甲子園特集号の本紙を見たり村川君と小泉君とは目を打つてみたり、いかにも勝つておどろめ岩手高ナインだった。

勝利を語る 岩高チーム

甲子園 宿舎で座談会



【甲子園にて本社七宮特派員】初陣の岩手高は甲子園の第一戦で3A対0と法政第二高校をまさやかにシャット・アウトした。甲子園ネット裏の記者団席では『番狂わせだ』などとの声も聞かれるほど岩手高の活躍ぶりほめまじしかった。この勝利は何だっのだろうか。勝利の夜、健闘した岩高ナインにその戦いのあとを語り返してもらった。

どうも立派な勝利 出動しない選手も多かったし、宿舎の人も親身になって世話をしてくれた。そのような周囲の気が

戸嶋(岩高野球部長) 新聞その他(資料)相手の力を研究して、川村(岩高コーチ)法政高は線なとと、チームの気分が県大会の細いチームだと思っていた。この県大会をのりまきで、各ナインが、ちびは大きくやるといのがネライ

司会 きょうは 一致協力、それも九人だけでなく

だった。勝利はやはり選手が県大会、県大会と同じような気持ちで、出陣したときほうれしかった。司会 あの時無死満塁で田中君

投手が三振と練習の時と同じにやれた。バッティングも上位打者がよく打ってくれた。司会 三回は板垣君の安打から

川村(投手) いつもと変わりな

板垣 真球を左翼にたいたが法

司会 三回は板垣君の安打から

板垣 真球を左翼にたいたが法

司会 三回は板垣君の安打から

板垣 真球を左翼にたいたが法

司会 三回は板垣君の安打から

板垣 真球を左翼にたいたが法

司会 三回は板垣君の安打から

板垣 真球を左翼にたいたが法

打易かった大泉投手

楽な気持ちで戦った

名久井(二塁手) ボールがよく見えたので、三塁打になったので、沢野君が定位置におれば短打だった。

司会 川村さん、作戦的にはどうだったのですか。

川村 敵の投手の立上りの不調に乗じたわけだ。これまでの岩高チームはいつもチャンスをもっているから大丈夫だと思っていた。スクイズでもやればもっと点が

が入ったかもしれないが、あんな相手には大きくやった方がよいと思いついた。

司会 法政二高はどんなチームだった。

板垣 走者が出た時バントの処理はうまくいった。

田中(中堅手) 大泉投手はよくドロップを投げていたが、いっど

ミスだった。

田中 あの下ドロップは打てる。オレの左翼職えの時、ドロップでバントのあたりは落ちるのを打った

小泉 やっていいファイトのないチームだった。

板垣 試合中せんせん声を出さない。

平野(三塁手) ボールがよく見えなかった。

戸嶋 うちのチームははじめてのチームには強いが市内の知りあつたチームとやると案外弱い。

小泉 いつも負けると思ってるからかえって勝ったのだ。

平野 予想は七分三分で甘く見られていたが、これは県予選の時からだ。

田中 七分三分とあた名をつけられるんで……。

司会 法政二は県大会あたりのチームと比べるとどうですか

小泉 花巻北高が秋田高位だ。

田中 秋田高位だ。

戸嶋 グラウンド・マナーの良いチームだった。

司会 日野先生観覧席からみた感じ、応援の方の様子はどうでした。

日野岳(岩高教諭) 八戸高とやつたときより楽な気持ちで見られた。応援団はラッシュの人が百名位きてくれたし、ウチワなどの準備が急でしえの応援団としては大成

功でした。

司会 ではこの辺で、第二戦もがんばって下さい。

(写真左から)川村監督、川村、板垣、田中、沢野、佐々木、名久井、小泉、平野、田中の各選手、戸嶋部長



こんどは坂出商

岩高・勝てると自信満々

【甲子園にて七宮特派員発】われらが代表岩手高チームは第一回戦に北四国代表坂出商高と対戦する

第五日目の第一試合(十四日十時)

抽選は第三日目第一試合新宮高対浪商高の熱戦のあとクラウンドで行われた。第一回戦の勝者城東高

岩手高、伊那北高、桐生高、坂出商高、日大三高、新宮高と試合順

にならび、城東高キヤプテンから運命の封筒をあけていった。二番

目に岩手高田中主将が緊張した表

情で封をきると第五日目第一試合

Aとでる。第一試合伊那北高、第

三試合桐生と出たあと坂出商高金

岡君の封筒から第一試合Bと出て

ここに岩手高対坂出商高の対戦が

決定した。

その瞬間、田中君にはハッと覚

悟の色がみなぎり、付そいの戸

嶋先生はホッとした表情。田中

君はさっそく坂出商高の金岡君

と抱互い闘志をひめた表情で握

手をかわしともに健闘を期す。

戸嶋野球部長は『城東、伊那北

高、坂出商高、日大三高の四つ

のうちには当ればよいと思ってい

たが、坂出とはよかつた』と第

一戦もモノになりそうだといい

表情。

坂出商高は第一日西中国代表の

岩国工高を4A...と接戦のすえ

うち勝って第一回戦に登場してき

たチーム。対岩国工高戦には安打

九を放っており、その打力は侮れ

ない。岡崎一中山のバッテリーは

中学以来六年のコンビで呼吸が合

っているのが強味。しかし岩手高

チームも対法政一高戦ですっかり

打力に自信をつけ向上の線をたど

っている。川村コーチも『うちの

打力は上昇しているし坂出商高の

投手は立上がり不調だぞうだか

らそこをねらって、また先取得点

で押しますよ』と自信のほどを語

(写真は抽選を終えて握手する同校の岩手高主将田中選手と甲子園電送)

岩高・甲子園に無念の涙

3-1 坂出商に敗れる

魔の六回 不運の落球

遂に岡崎投手打崩せず

【甲子園にて本社七宮特派員発】全国高校野球第五日目の十四日第一試合、北四国代表坂出商高と対戦した岩手高は3A...1で惜しくも敗れた。余く惜しい勝負だった。第一戦で神奈川代表法政二高を降し二回戦に進んだ岩手高はここに準々決勝を目前に甲子園原野から消え去った。試合終了のサイレン鳴り終って元気にダック・アウトに引揚げた岩手高各ナインは互に手をとりあい汗と涙のユニフォームのそでで汗をぬぐいながらくやしがあった。敗因のエラーをつくった遊撃小泉はぐっとあふれ出る涙をかみしめている。田中は「なせごらんのか、なせごらんのか」としきりに自問自答し、戸嶋部長に「いいんだ、いいんだ」となぐさめられていた。左翼手の佐々木、右翼手の沢野など二年組はこの目とみに安打を放っただけに「来年も必ず甲子園に出るぞ」と覚悟を秘めていた。(試合詳細は二面)



五回表村川の適時打で1-1と同点に持ちこみながら「魔の六回」安打に出た坂出商山科を二塁において中川の遊ゴロを遊撃小泉の失策で山科は一挙に本塁をついた。球は小泉、村川、田中と送られ、田中は本塁前で山科を一度は見事に刺したのだが、真正面からぶつかられたため転倒、そのとき田中のミットからボールがポロリと

転がり落ちて山科は生還した。この一点すらなかったならば、あきらめきれぬ岩高の不運だった。敗因について川村コーチは「村川にボールが多かったこと、相手岡崎投手のアウトロ、アウトカーブに主力の板垣、田中が打てなかったこと」をあげている。村川投手は「きよほども体が重く、ボールがきまらない感じ

RUBY
ルビー印掛時計
著名時計店にあり

ネット裏から

【甲子園にて七宮特派員発】〇...対法政二高戦に打棒のさへ見せた岩高、対坂出戦には破れたとは言え三回、四回続けてこのダブル・プレーで守備の華麗さをみせた。三回裏坂出商山科がヒットで出た後、黒田の二ゴロで山科を二封、一塁にも送られたが、わずか一戦で、退場の岩手高各ナインに『来年もまた出てこいよ』と激励の音がかけられていた。

【甲子園にて七宮特派員発】〇...なんといっても魔の六回、小泉の失策と田中の転倒は痛かった。もしあのとき、田中が転倒していなければ一度アウトにしたのだから、坂出は得点でまず、勝敗の行方はわからなかった。

〇...岩高の応援団、県人会のわが作りのウチワ三百本を贈られ、またラサ工業大阪工場が百名余り動員したり、日本アルミ三川社長

の好意で大ダイユが持込まれたのでタイコ、笛、ウチワと三つもそろえ、岩高先輩がリードになり巧みな応援ぶり。

岩高、17日に帰盛
【甲子園にて七宮特派員発】甲子園で健闘した岩高チームは十五日夜八時十五分大阪発の列車で大阪を立ち、十六日東京見学、十六日夜十時五十分、上野駅発で十七日午前十時四十分盛岡駅着で帰省する。

（写真は）岩高へ応援を続ける応援団の五回裏岩手二死三塁のとき村川の中前安打で小泉生還（捕手村川、球審小泉、大阪放送）

六回に致命的な2点

岩手高、必死の追撃及ばず

【甲子園にて本社七宮特派員発】第三十七回全国高校野球第五日目は十四日午後零時三十四分から開始された。この日行われた第一回戦「試合」奥羽代表が岩手高校対北四国代表坂出商高戦は岩手高が坂出商に先取得点を許したが、五回より二点を返して同点に近づけた。しかし不運にも六回安打と失策で致命的な二点を奪われ、その後岩手高必死の追撃も奏功せず、岩手高の健闘むなしくついさずAで涙をのんだ。

◇二回戦

岩手高(奥羽) 対坂出商(北四国)

岩手高 0000 0100 0000
 坂出商 0100 0020 000A 31

【試合経過】一回(岩手)板退(坂出)山田遊ゴロ、黒田投ゴロ三振、名久井遊ゴロ、田口三振で三番凡退(坂出)山田一邪飛、山田三ゴロ、黒田三ゴロと三番凡退(両軍)。二回(岩手)田中三振、小泉一飛、沢野中前安打、しかし佐々木見送りの三振でチャンスを通す(坂出)山科四球、中川バントで山科一進。続く岡崎中前に通球で山科一塁から、養生進、先取得点をあぐ。しかも水本四球で一死走者一、壘大東左飛で一死、大喜多四球で一死満塁。山田左飛で岩手危機を脱す(岩手)。三回(岩手)村川三振、平野遊ゴロ、板垣左飛(坂出)山田左前安打、黒田三ゴロで山田は二封山科ゴロの四六三併殺を喫す(両軍)。四回(岩手)名久井右飛、田口三振、田中左翼に大飛球、しかし山科の好捕に阻まれる(坂出)中川遊ゴロ、岡崎四球、水本三ゴロで五、四三併殺(両軍)。五回(岩手)五番小泉左前安打に出てスタート、良、盗に成功チャンスを迎える。沢野の三ゴロで小泉三進、佐々木一球目でスクイズバントを敢行したが三塁走者小泉スタートせず、しかしつづく村川投手足下を抜く殊勲の安打で小泉生還同点とつきつ、平野三ゴロ。(坂出)大東三振、大喜多中飛、山田左飛の三番凡退。(岩手)坂出。六回(岩手)板垣投ゴロ、名久井二ゴロ、田口捕邪飛で三番凡退(両軍)。

【戦評】試合運びにまさった坂出は岩手のわずかな乱れに乗じ、得点して勝利をきった。坂出は二回四球の山科を手固くバントで送ったあと、岡崎の中前適時打で先取点をあげ、六回は二死後山科の安打、中川の遊ゴロで演じた岩手遊撃と捕手のダブル・エラーでふたたびリードを奪ったあと、死球と二本の安打がでたさらに一点を追加した。岩手村川は前半ボールが浮いて制球に苦しみ、二回先取点を許したが、五回安打に出た小泉を三塁において自ら中前安打を放ち同点としたところから立ち直りつつあった。しかし六回演じた失策が致命傷となって、惜しくも敗戦にあまんだ。

手	打	安	失	三	四	犠	盗	残
板垣	0	0	0	0	0	0	0	0
名久井	0	0	0	0	0	0	0	0
田口	0	0	0	0	0	0	0	0
山科	0	0	0	0	0	0	0	0
中川	0	0	0	0	0	0	0	0
岡崎	0	0	0	0	0	0	0	0
水本	0	0	0	0	0	0	0	0
大東	0	0	0	0	0	0	0	0
大喜多	0	0	0	0	0	0	0	0
小泉	0	0	0	0	0	0	0	0
沢野	0	0	0	0	0	0	0	0
村川	0	0	0	0	0	0	0	0
黒田	0	0	0	0	0	0	0	0
山田	0	0	0	0	0	0	0	0
計	30	4	3	8	0	1	1	3

手	打	安	失	三	四	犠	盗	残
板垣	0	0	0	0	0	0	0	0
名久井	0	0	0	0	0	0	0	0
田口	0	0	0	0	0	0	0	0
山科	0	0	0	0	0	0	0	0
中川	0	0	0	0	0	0	0	0
岡崎	0	0	0	0	0	0	0	0
水本	0	0	0	0	0	0	0	0
大東	0	0	0	0	0	0	0	0
大喜多	0	0	0	0	0	0	0	0
小泉	0	0	0	0	0	0	0	0
沢野	0	0	0	0	0	0	0	0
村川	0	0	0	0	0	0	0	0
黒田	0	0	0	0	0	0	0	0
山田	0	0	0	0	0	0	0	0
計	28	6	0	2	6	1	1	8

我らかく戦えり

岩高ナイン・甲子園の感激つづる

【甲子園にて本社七宮特派員】わが奥羽代表岩高ナインは十四日の第一回戦第一試合で北西国代表坂出高と対戦、よく健闘したが3A...1で惜しくも敗れた。しかし野球部創設以来十年目、しかも初出場でありながら、第一回戦で神奈川代表法政二高を3A...0と堂々とシャット・アウトし、奥羽高校野球史にさんとして輝く殊勲をうち立て賞賛された。その活躍した岩高ナインに甲子園での感激をつづってもらった。

み込まれるだろう。甲子園では奥羽の代表として恥しないよう石坂精神の神髄を十分に發揮したつもりだ。

よりの第一回戦の北西国代表の坂出高とも全力をつくして戦ったつもりだ。

出来たことには非常にうれしい。これは全ナインが八方という大観衆のもとでも上から下に全力を尽したためだと思ふ。二回戦も全力を尽して戦ったつもりだ。

主将、捕手 田中義男
高校

私はこのことであらうが、夢にまでみた甲子園が私の目前に豪華華麗にそびえ立つた時、私の胸は喜びでいっぱいだった。また第一戦を勝利で飾った時、郷土のみなさまからの心こもった祝電を受け、さらに第二戦でも絶大な声援をくださったことを深謝しております。いずれこの機会に自信を持つことができたことは喜ばしい。

三塁手 板垣隆夫
夢にまでみた甲子園での第一戦は大部分がナインは不利であるとみていた。八万の大観衆の前

この感激と名前は私の高校時代の最高のものだと思ふ。郷土のみなさまの声援を心から深く感謝している。初戦に法政二高を降したこの喜びを新たに、こんどもこの感激をもってガンバルつもりだ。

右翼手 沢野 星安
夢にまでみた甲子園球場が電車の窓をとおしてみえたとき私はいい知れぬ喜びを感じた。甲子園球場に第一歩を踏入れたとき急に上がるような感じがしたが少し少上がった方が肩の調子が良くなる私は、有利だった。われわれのように初出場チームは上がるか上がらないかによって勝敗が決まるのではないだろうか。試合が終わってから宿にきている電報をみたとき、私は郷土のみなさんの声援に心から感謝せずにはいられなかった。こんども郷土の声援にこたえ、一所懸命がんばる。

投手 村川吉備
甲子園の

二年生にして実現した。これは一生輝の思い出として深く心に刻みこま

二塁手 平野喜三
私は夢にみた甲子園大会に出場出来たということは、一生輝胸の奥深くにきざ

中堅手 田口節雄
初戦に勝

左翼手 佐々木英雄
夢の甲子園に出場できたことは非常にうれし

他の有名、無名の選手を送り

もの求めてはる。それを僕は今日なし得た。夢の甲子園、速い国甲子園、速く他の有名、無名の選手を送り

子園大会に出場出来たということは、一生輝胸の奥深くにきざ

でわがナインは一丸となって皆身の戦法で戦った。この意気は全く法政を圧倒し勝利を得ることが出来た。この感激は言葉に現わすことが出来なかつた。き

初戦に勝

夢にまでみた甲子園球場が電車の窓をとおしてみえたとき私はいい知れぬ喜びを感じた。甲子園球場に第一歩を踏入れたとき急に上がるような感じがしたが少し少上がった方が肩の調子が良くなる私は、有利だった。われわれのように初出場チームは上がるか上がらないかによって勝敗が決まるのではないだろうか。試合が終わってから宿にきている電報をみたとき、私は郷土のみなさんの声援に心から感謝せずにはいられなかった。こんども郷土の声援にこたえ、一所懸命がんばる。

